# 一隅を照らす運動総本部だより No.43

一隅を照らす運動ホームページアドレス
http://ichigu.net

# タイ・スタディーツアーを実施

一隅を照らす運動総本部では、平成二十八年十一月一日～五日の日程で、比叡山高等学校と駒込高等学校の生徒八名を引率し、タイ王国（ドゥアン・プラティープ財団）を訪問するスタディーツアーを実施した。

このツアーを通じて、一隅を照らす運動が取り組む地球救援事業への理解を深めるきっかけとしてもらい、貧困地域の現状に触れ、普段の学習では得ることのできない経験を積んでもらう事を目的に実施した。

二日には、ドゥアン・プラティープ財団「生き直しの学校」（チュンポーン校）を訪問し、財団創設者であるプラティープ・ウンソンタム・秦先生をはじめ、施設の子どもたちによる歓迎を受けた。

この施設では二日間、日本の高校生とタイの子どもたちが交流し、共同作業に取り組んだ。言葉の壁はあるものの、タイ語の指差し会話本やジェスチャーを通して積極的に交流する姿が窺えた。他にも、将来の夢や普段の生活について通訳を交えて意見交換するなど、多くを学ぶ貴重な機会になったように感じる。

「生き直しの学校」チュンポーン校到着時（11月２日）

四日には、ドゥアン・プラティープ財団の事務所（バンコク）を訪問した。事務所のあるクロントイスラム地区を様々な説明を受けながら視察し、日本とのギャップに直接触れる機会となった。

また、日本の高校生と同年代のタイの専門学校生四名との意見交換をする時間もいただき、将来の夢や自国の抱える問題など積極的に発言する姿が窺えた。

今回のスタディーツアーでは、普通の旅行では体験できないような企画となっており、参加高校生にとっては絶好の学びの場となったのではないか。この経験を生かして、今後の活躍に期待したい。今回のツアーでの反省点を確認し、次回以降の企画に役立てたい。

## 《参加生徒の感想》

### 「スタディーツアーを終えて」

比叡山高校　二年　小林未歩

私は、スタディーツアーを終えたくさんのことを学びました。プラティープ財団「生き直しの学校」では、多くのおもてなしをしてもらいました。歓迎のファイアーダンスも見せていただきました。現地の子どもたちと一緒に灯籠を作り灯籠流しや、Tシャツ作りも一緒にしました。みんな手が器用でほとんど手伝ってもらいました。

次の日は、朝六時から子どもたちと一緒に体操、運動、掃除をしました。

体操は少し日本のラジオ体操と似ていたと思います。運動は、バスケットボールをしました。みんな真剣で、凄く楽しかったです。掃除は、みんな少しずつ役割が決まっていることがわかり、協力してできたのではかと思いました。朝食のオムレツは自分で味付けをし、プラティープ先生が作ってくれました。

朝食を終えてからは、キノコ栽培の手伝いをしました。日本ではキノコの栽培をしている所はあまり見たことがなかったので凄くおもしろかったです。昼食を終えてからは、子どもたちとグループになり話しました。自分たちの将来の夢について話すことになり、タイの子どもたちは「これになりたい」と夢が決まっていて、まだ決まっていない自分たちとは違って凄いと思いました。最後に農作業の手伝いをしました。バナナの木やアブラヤシの木に肥料を撒くのですが、現地の子がバケツを持ってくれ、凄く優しかったです。日本では体験できないことがたくさんでき、楽しかったです。子どもたちはみんな優しく元気でした。

最終日はドゥアン・プラティープ財団訪問とクロントイスラムを視察しました。クロントイスラムは家が密集しているためゴミ置き場が作れず、道に物を捨てるしかないそうです。しかし問題はそれだけではなく、クロントイスラムの土地は国の土地なので、立ち退きなどの大きな問題があるそうです。

プラティープ財団の子どもたちの多くは家庭環境に問題があり、両親と一緒に暮らすことができずに祖父母と一緒に暮らしている子や、両親が離婚している子だそうです。子どもたちは、学校に行きたくても家庭の事情であきらめないといけないということがわかりました。ほとんどの子どもたちはアルバイトをしているそうですが、自分のためには使わずに生活費や授業料に使うそうです。私たちは普通に学校に行って、当たり前に授業を受けていることに感謝をしないといけないということがわかりました。スタディーツアーで普段学ぶことができないことを学べて良かったです。

## 「スタディーツアーを終えて」

比叡山高校　二年　竹川采那

スタディーツアーに参加することが決定するまで、私はタイについてあまり知りませんでした。タイについて何が思い浮かぶかと聞かれると、ゾウ、仏教、一回も植民地になったことがない国としか答えられないぐらいの知識しかありませんでした。そこでタイについていろいろ調べてみると、経済の発展にともない発展しているところと、そうでないところの格差が広がり、問題になっていることなどを知りました。

実際にタイに行ってみると、バンコク市内には一流ホテルや企業、有名な観光地など、きれいで発展している部分の中にスラム街や物乞いをしている人たちなど、見ていて辛くなるような部分があり、まじまじとタイの格差というものを感じました。

生き直しの学校では、想像していた以上にそこで生活している少年たちが積極的に話しかけてくれて嬉しかったです。また、Tシャツ作りやキノコの栽培を一緒にやっていくうちに仲良くなることができました。そこで私は言葉が全然わからなくても、表現やジェスチャーなどを使って伝えようとすれば通じるということを改めて思いました。

少年たちとの交流会では、私が「将来の夢はありますか」と彼らに質問すると「経営者になりたい」「警察官になりたい」「教師になりたい」などの

答えが返ってきました。みんな明確な目標を持っていて凄いと思いました。ガイドの方に、貧しい暮らしから抜け出すためにはちゃんとした仕事に就かなければいけないから、みんな頑張って勉強しているという話を聞いて、日本では自分の就きたい仕事といえば興味のあることや幼いころに憧れを持っていたことなどから選ぶが、タイでは自分の人生や生活のために仕事を選んでいる人が多いことを知り、なんだか悔しい思いになりました。

彼らが生き直しの学校に来る前に生活していたスラム街を見に行ったときはとても悲しく辛くなりました。スラム街には足の踏み場のないくらいゴミが散乱していて、とても強い悪臭がしました。案内してくれた方から、スラム街は道や面積が狭く家も密集しているため、ゴミを集める所やゴミ箱さえもなく、結果住民たちはゴミを捨てるのだと教えられました。私は、スラム街で生まれた子たちが最初からゴミを捨てる習慣がないために改善されないのだと思いました。こうした問題を良くしようと活動している方たちを心から尊敬しました。そして私も人を助ける仕事に就きたいと思いました。

このスタディーツアーを通じて出会った駒込高校のみんな、比叡山高校のみんな、生き直しの学校のみんな全員に感謝しています。ありがとうございました。

## 「タイ・スタディーツアーに参加して」

比叡山高校　一年　川瀬裕加

十一月一日から五日間、私は「タイ・スタディーツアー」に参加させていただきました。一日、関西空港を飛び立って約六時間半後、タイの首都バンコクに到着しました。バンコクの街は建物がカラフルで全体的に色鮮やかな印象です。しかし、街のどの看板にも先日亡くなった国王の写真が貼られていました。私は、テレビのニュースや事前学習で知ってはいましたが、ここまで国全体が悲しんでいるとは思っていませんでした。

バンコクで一泊し、翌日ツアーの一番の目的である「生き直しの学校」へ出発しました。空港に着くと田辺さんという通訳をしてくださる方とお会いしました。田辺さんは学生の時に今回のような活動を通じてタイが好きになり、移住してきたそうです。私は将来、語学の勉強ができる大学を目指しているので、いろんな体験談を聞けてとても勉強になりました。

スラタニ空港から学校へ向かうバスの窓からの風景は、バンコクとは違い道の両側にヤシの木やココナッツの木が植えてあって、いかにも南国といった感じです。しかし、国王の死を悲しむポスターや写真はこちらにも多くありました。

学校に着くと、子どもたちと先生が手を振ってお出迎えしてくださいました。子どもたちは白い花で作ったブレスレットを笑顔で渡してくれました。出発前は、男の子しかいない学校で言葉も通じず、どのようにコミュニケーションを取るかと不安に思っていましたが、そんな不安は一瞬で吹き飛びました。

施設では、果実園で果物を採って食べたり、バナナの皮で船を作り川に流したりと日本ではできない体験ばかりでした。どの場面でも私たちが困っていると、すぐに少年が飛んできて手助けをしてくれます。日本では周りの目を気にして、なかなか素直に行動できないところがあります。しかし、ここは違いました。タイは蛇口からお湯が出ないなど、生活するには日本より不

便な点が多くあります。しかし、心の優しさや豊かさは、日本人よりも勝っていると感じました。

夜には子どもたちが火のショーを披露してくれて、そのレベルの高さにまたしても私たちは驚かされました。小さい子どもたちも心を一つにして、一生懸命時間をかけて練習してきたのが伝わりました。私たちからの出し物は、ビンゴでした。これは、何の手間も掛からずに喜んでもらえるだろうという安易な気持ちで決めたものです。ここでも日本とタイの国民性の違いを感じました。しかし、タイではお金をかけてするくらいビンゴは人気があるそうで、みんな盛り上がってくれて良かったです。二日目も楽しい時間はあっという間に過ぎ、お別れの時はとても悲しかったし、また来たいと思いました。

最終日、スラムを視察しました。そこは想像していたよりも悲惨な環境でした。ゴミ箱を置く場所がなく、通路や建物の周囲にはたくさんのゴミが散乱していました。プラティープ先生がこのスラム出身で、スラムの子どもたちに勉強を教える活動をされ、いろいろな賞を受賞されたのも最もだと思いました。日本もノーベル物理学賞だけでなく、平和賞に値するような活動が増えれば良いなと思っています。私も将来何らかの形でお手伝いしたいです。それには、まず勉強して自分自身の知識を向上させることが必要です。

最後に、私にこのような素晴らしい機会を与えてくださったことに感謝しています。本当にありがとうございました。

## 「タイ・スタディーツアーを終えて」

比叡山高校　一年　小林未來

今回のスタディーツアーへの参加を通じて、貴重な経験や多くのことを学ぶ機会が得られた。ツアーの目的は、一隅を照らす運動が取り組む地球救援事業への理解を深めるきっかけにすること及び貧困地域の現状に触れ、普段の学習では得ることのできない経験を積むことであった。この目的を踏まえて、経験したことや学んだことを以下にまとめる。

このツアーに参加したことで、地球救援事業の活動は、「人と人のつながり」があってこそ活動していけるのだと知った。例えば、貧困や家庭の事情で生活していることが困難な子どもを支援する、ドゥアン・プラティープ財団の生き直しの学校という所を訪問した時のことである。

ここは、創設者であるプラティープさんをはじめ、そこで暮らす子どもたちや教育をする方、ボランティアの方など、生き直しの学校に関わる多くの人が支え合って作られてきた。その中でも特に「人と人のつながり」を感じさせられたことは、そこで暮らす子どもたちの仲の良さである。

交流最終日にした意見交換の際に、生き直しの学校に来て四ヵ月だという子がいた。私からすると、みんな生まれたときから一緒にいるというぐらいの仲の良さなので、ここへ来てそんなに日が浅いとは思わなかった。彼も初めは上手くやっていけるか不安だったそうだが、学校の人々の温かい笑顔に迎えられ、共同生活することを決定したそうだ。

また、彼もこの学校に来たということは、少なからず複雑な思いを抱いているのだと思うが、それを吹き飛ばすような笑顔が輝いていた。このことから、「人と人のつながり」の素晴らしさを知った。そして、地球救援事業の募金活動で得られた基金が、「人と人のつながり」を作る手助けをしている

のだろうと思った。

もう一つの目的である普段の学習ではできない経験を積むという点では、貧困地域への訪問や同世代の方との交流から、「普段の生活へのありがたみ」を感じさせられた。勉強したくても、貧困のために進学をあきらめざるを得なかった人、高校生で生活費を稼ぐためにアルバイトをしている方の話を伺い、衝撃を受けたとともに、勉強ができることのありがたさ、自分が親や多くの人に守られ支えられて生活していることを改めて実感した。

今回のツアーの目的から、私は「人と人のつながり」と「普段の生活へのありがたみ」について再発見できた。また、このツアーで学んだことや貧困地域での現状をより多くの人に伝えていきたいと思う。

最後に、今回のツアーに関わり貴重な経験をさせてくださった方々に感謝の意を表する。

## 「スタディーツアーを終えて」

駒込高校　一年　稲田あかり

十一月五日、朝七時、五時間のフライトで日本に帰国した。短期間だったが濃密なスタディーツアーだった。出発の一週間前の景色と目の前の景色は同じはずなのに違うように見えた。それだけ大きな経験がこの研修の中でできたと思う。

ツアー初日、比叡山高校の四人と合流した後、タイで一番栄えているというバンコク市内を回った。ビルが建ち並び都会的な景色はさほど東京と変わらず、「貧困」という言葉には無縁のような印象を受けた。しかし、バンコクの町を歩いていくと、路上では子どもやお年寄りが器を持って物乞いをしている姿をよく見かけた。一人二人ではなく、時には六人くらいで道に座り込み、私たちを呼ぶ者もいた。国民の生活の格差はバンコクなどの大都市にもある、という事前にタイについて調べたときのことを思い出し、現実なのだと身をもって感じさせられた。その日は複雑な思いでベッドに入った。

二日目、「生き直しの学校」へ行く。ここでは六歳から十八歳までの「様々な理由」で保護された青少年が生活している。生活費の一部となるキノコ栽培の作業を手伝い、日本で準備していたレクリエーションをし、交流を深めた。現地の伝統である灯籠流しにも参加し、ともにヤシの葉で灯籠を手作りした。夜、歌いながら川へその灯籠を流しに行った幻想的な風景は本当に美しかった。彼らをまるで以前から知っていたかのように打ち解けることができ、言葉の壁なんてないと実感した。

「様々な理由」それはもともと彼らがスラムで育った子どもたちで、一人で居るのを保護された子や、親が経済的やその他の理由で育てられないなど、いずれも十分に教育を受けられない子がほとんどだった。その子どもたちが、遠い日本から来た私たちに何事にも優しく笑顔で接してくれた。この笑顔に触れたとき、私は言葉にできない何かを感じた。彼らには本当に感謝している。

最終日、実際にスラムを歩いた。初めて見るスラム、本やニュースでスラムの話や写真に触れることはあっても、実際歩くと目に映る物すべてが衝撃だった。鼻をつく臭い。路上の至る所に動物のフン、生ゴミがあり、ゴミ捨て場がないため子どもたちの遊ぶ広場さえもゴミの山となり、野良猫の数は何十匹だった。とても道と呼べるものではなかった。

昨日別れた生き直しの学校の少年たちがここで育ったとはとても思えなか

った。彼らがこの中で生まれ育ち、小さい頃からたくさんの経験をしてきたと思うと涙が止まらなかった。何の不自由もない生活をして、自分のやりたいことばかりをしていた私と彼らを比べると自分が恥ずかしくも思えた。同時に、私が今置かれている環境を当たり前のように思うことは間違いだと思わされた。

私が歩いたのは「クロントイスラム」というバンコク最大のスラムだった。ここは四十四の地区に分かれていて、十五万人の人が生活しているという。中には、タイと陸続きのカンボジア・ラオス・ミャンマーからの約一千人の移住者もいると聞いた。住んでいる大半の人が路上で屋台を出すか、日給制で港での重労働をしているかのどちらかだと聞く。それならば街でアルバイトをしてはと思ったが、レジ打ちの仕事でさえも大卒でなければいけないというのには驚いた。また、麻薬中毒者も多くいると知り、悪道に走ってしまうのは教育が十分に受けられていないためだと、改めて考えさせられた。財団の方が話されていたが、「良い大学にいけない→仕事がない→生活できない→スラムで生活する→十分に教育を受けることができない…と負のサイクルだ」という。教育を受けることができる場所をもっと増やさなければいけないと思った。しかし、学校や施設を増やすといっても、そう簡単なことではないと思う。仮に、支援やボランティアで私たちがお金を出すなど一時的な支援をしたところで、その地での教育が成り立つということではなくて、まずは現地の教員を育てることや生徒が通う環境を作ることから始まる。ただ、学校を作るだけでもたくさんの問題が起き、ボランティアでどうにかしようと思っても相当な時間と人が必要だと思った。ボランティアの根本的なことについても身をもって学ぶことができた。

この研修の中で、スラムに住みながら学校へ通っている現地の学生四人と実際に意見交換をしたことが特に心に残っている。驚いたのは、彼らの話す夢はどれも具体的なもので、プログラマーやアニメーターを目指し、それに向かって努力しているという話を聞いた。私たちのよく言う「誰かの役に立ちたい」とか漠然とした言葉ではなく、現実的で生きた言葉だった。

「タイから日本に移り住みたいと思うか」という質問が私たちの中から出た。「旅行には行きたいけど住みたいとは思わない。タイが好きだから」スラムに住む女の子の答えだ。

今回のこの貴重な経験を通して、「一隅を照らす」という言葉の意味をもう一度考えた。自分の置かれた環境でやるべきことをやる。出会ったタイの少年たち、スラムの学生は既に一隅を照らしている。様々な気持ちを経験した彼らの魂を真摯になって受け止め、短かったけれど濃厚なこの五日間を起点としてこれからの生活に役立てて生きていきたい。

私は何をここでやるべきか、今考えている。

## 「ひとりじゃできないこと」

駒込高校　一年　石田紗奈

「タイってどんな国なのだろう」スタディーツアーに参加する前の私は、そんなことを考えていた。それと同時に今まで十五年間も生きてきたのに、タイについての知識の蓄えが十分になかった自分を恥ずかしく思った。だからこそ、より多くの新たな発見ができれば良いなと期待を寄せ、また少しの不安を抱きながら臨んだ。

現地に行くことによって学べたことは数々あるが、特に私が変えていかなければならないと感じたことは二つある。

まず一つ目に、タイの教育制度である。現代の世界の国際化に伴い、私たちは第二言語として英語を学ぶことができている。しかし、驚いたことにタイでは英語が通じない。もちろん実際に「生き直しの学校」の生徒など、現地の人々とコミュニケーションをとる中で、英語が使えないことを不便には思わなかった。だが、やはり英語が通じるならばもっと便利だろう。加えて、日常会話ではなく就職の際になったらどうだろう。タイの現状を世界に鮮明に伝えるためにも、英語は話せた方が良いと考える。

そして二つ目に、タイ国民自身の意識である。私はバンコク内の「クロントイスラム」を訪れて、一つの疑問が頭をよぎった。それは、「ゴミ箱を設置するスペースがないにしても、なぜ自分たちで不要な袋などを用いてゴミを拾おうとしないのか」ということである。原因はどこにあるのだろう。私には、国民の意識の問題のように思えた。しかし、だからといってタイ国民を責めている訳では決してない。なぜなら、国民の意識は政治・経済・文化、これらの発展に比例して培われていくものだからだ。

正直言って、私はこの二つの事例に対してはっきりとした解決案が見いだせないままでいる。ただ一つ言えるのは、私たちはタイ自身が自立できる力を養えるような支援の形を取らなければならないということだ。

例えば、どこかで地震が起こり、ライフラインが絶たれたとする。もちろん、そんなとき最初に必要となってくるのは、他の地域からの物資支援である。しかし、それらはすぐに尽きてしまうのだから、結局はライフラインを完全に復旧させないと、いつまで経っても復興にはたどり着けない。それと同じように、タイは自国を良い方向にいざなうために解決策を練る必要がある。その過程で求められるのが、私たちの力なのではないか。

「こんなちっぽけな自分に何ができるのだろう」

そう考えたとき、真っ先に思い浮かぶのは勉強を教えられるようになることだ。もちろん、日本語に限らず英語やフランス語、そしてタイ語など、さまざまな言語を話せるようにならないと、世界中の子どもたちに直接教えることができない。世界を跨ぐ先生になるには長い道のりが待っているだろうが、それが私たちの使命のほんの一部であると思っている。私は、この世界を更に輝かせるために一生を使いたい。

## 「タイ・スタディーツアーに参加して」

駒込高校　一年　村上颯一

私が今回タイ・スタディーツアーに参加しようと思ったきっかけは、日本の貧困問題に興味を持ったからです。自分と変わらない年の子が貧困により辛い思いをしている現状を知り、貧困が連鎖する理由や世界の貧困の現状をこの目で見て、考えたいと思ったからです。現地を訪れる前に事前学習でタイに関する本を読み、タイ国の成り立ちや経済格差が生まれた理由などについて、ある程度理解はしていました。しかし、実際に訪れてみると本からは感じることのできない様々な衝撃を受けました。

一つ目はスラム街。タイのスラム街は非常に衛生環境が悪く、私たちが宿泊した市街地とは大きな差がありました。

二つ目は親子で物乞いをしている姿。バンコクは首都であるにもかかわらず、子どもから大人まで通行人に施しを求めていました。本を読んでこの現状は知っていましたが、実際に子どもたちが物乞いをしている姿を見るととても心が痛みましたし、日本では見かけることのない光景だとも思いました。

三つ目は子どもたちの犯罪事情。私たちが訪れたプラティープ財団は、罪を犯した子どもたちの更生を担いつつ、家庭環境が悪く勉強できない子どもたちを教育するための施設です。窃盗や麻薬の使用など、犯罪に手を染めていた子どもがいるという事実に大変衝撃を受けました。決して許されることではありませんが、彼らがそのような貧しい生活を作り出した訳ではありません。親やそれ以前の代から代々貧困が連鎖しているため、このような状況に陥ってしまうのです。

そのように考えると、犯罪に手を染めなくては生活が厳しいほど追い詰められているタイの貧困層の子どもたちは、日本の貧困層の子どもたちとは大きな差があるように感じました。日本とタイ、それぞれに共通して言えることかもしれませんが、教育こそが貧困を断ち切るための第一歩なのではないかと思います。

貧しい人にお金を与えることは、あくまで一時的な援助であって、根本的な解決には至りません。社会で生きていくための知識を身につけ、自分の力で収入を得ていくことこそが、結果的に貧困から抜け出すことに繋がるように思います。社会保障の整備などは国が行わなくてはなりませんが、教育は地域社会が協力すればできることでもあります。プラティープ財団のように「一隅を照らす」活動をする団体が増えることを願わずにはいられません。

プラティープ財団の子どもたちは、私たちと交流をはかる中で、別れ際に手紙をくれました。読み書きすらできなかった子どもたちが一生懸命に文字を覚え、拙いながらも心を込めて書いてくれた手紙。タイ語で書かれているため内容までは理解できませんでしたが、これを機にタイ語について勉強し、手紙に込められた思いをしっかりと受け止めたいです。そして学んだタイ語を活かし、将来自分の特技である珠算をタイの子どもたちに教えるボランティア活動をすることで、自分なりの「一隅を照らす」を実践したいと思います。

## 「タイ研修を終えて」

駒込高校　一年　渡辺桃子

今回のタイ研修を通して、私はたくさんのことを学ぶことができた。私がこの研修で一番の目的としていたことは、社会が発展している表の世界がある一方で、それが原因で苦しんでいる人がいる裏の世界を見て、私がどう思うかということだ。実際に行くのとネットやテレビで見るのとは違う、そんな思いを持ちながらまずバンコクに着いた。

そこで一番に感じたことは、すごく都会で貧乏そうな人はいない。ビルだってたくさん建っていて何も不便がなさそうだなと思った。つまり、これが日本でテレビやネットでも見ることができる表の姿というものだ。タイの首都であるバンコクには、いろいろなお店やたくさんの車が通る大きな道路など、東京とあまり変わらないのではないか？と思うくらい賑わっている。しかし、これはタイのほんの一部の姿でしかない。それなのに日本のテレビやネットは、この姿をこれがタイの国、いつもみんな賑やかですべての地域が発展しているかのように報道する。この行為が私たちに世界の本当の姿を見

せる邪魔をしているのだと強く思った。

そしてバンコクを観光した後は、チュンポーンというタイの田舎の地域に滞在した。初めに驚いたのは、やはりバンコクとの差だった。チュンポーンはバンコクから飛行機で一時間弱の距離にあるのだが、都会とは全く違いほとんどビルが建っていない。そして人がほとんどいない。そんな場所にある生き直しの学校に私たちは向かった。

そこでの活動は、その施設で暮らしている子どもたちとの交流がメイン。そこでの生徒の多くがスラム街出身や親の貧困によって一緒に暮らすことができない子など、様々な事情を抱えている子どもたちだった。そんな子どもたちが暮らす施設なんて暗くてどんよりしていると、行く前の私は思っていた。しかし、実際に行ってみると全く違う。施設にいる子たちはみんな仲が良くて、初めて会う私たちにも優しくしてくれる明るく元気な子ばかりだった。自分がスラム街で生まれたことや貧困なことをいつまでも嘆くのではなく、一人ひとりが自分の夢に向かって頑張っているのだなと感じた。

そして私たちは生き直しの学校で様々な農業体験や灯籠作り、Tシャツ作りなどたくさんのことを体験させてもらった。ここでの体験は私にとって初めての体験ばかりで、戸惑うこともあったけれど、タイの子たちは言語が通じないことを全く気にせず丁寧に説明してくれて、言葉がわからなくても意志は通じるのだなと思った。

そして三日目は彼らの多くが生まれたスラム街の見学に向かった。そこはバンコク市内にあり、外から見るだけでは家や壁が密集していて中の様子は何もわからない。タイのスラム街とは貧困層の人々が仕事場に近い場所を求めて、そこに住み着いてしまうことでできる町のことだそう。中に入ってみるとそこは匂いがひどく、ゴミが散乱していて、きれいとは言えない状況だった。彼らが住む場所は、家が密集しすぎていてゴミを収集する場所が作れない。よって、ゴミをその辺に捨ててしまう習慣がついてしまった。

このような負のサイクルがタイの貧困層の間にはたくさんある。そんな現状を目の当たりにした私は、すごくショックを受けた。この研修に行く前は自分にも何かできることがあるかもしれない、自分が何かすることで教育を変えられるかもしれないと思ったが、スラム街を見て教育についての問題はもっと大きな問題で、教育が受けられないことが一番の課題だと思った。それは私たちには解決できないくらい大きい課題。しかし、その大きな問題にめげずに生き直しの学校を建てた人々やその他のボランティアの人など、大きな問題に立ち向かっている人がたくさんいる。

そんな人たちを見て、一度は何もできないかもしれないと思ったが、自分にできるどんな小さなことでもいいからやっていこう。そんな気持ちになることができた。今回のタイ研修は、私の人生においてとてもいい経験になり、私自身の価値観を変えた。これからもこの活動で学んだことを忘れずに人生に生かしていこうと思う。

十一月二日

Ｔシャツ作り

施設内を視察

灯籠流し

灯籠作り

十一月三日

キノコ栽培

朝課の運動

アブラヤシ苗木への施肥料作業

意見交換会

十一月四日

クロントイスラム地区の視察

チュンポーン校での修了式

財団事務所での学習会

クロントイスラム地区の視察

# 第三十一回 全国一斉托鉢

平成二十八年十二月一日、第三十一回全国一斉托鉢が開始された。十二月の「地球救援募金強化月間」中は各教区本部を中心に戸別托鉢や街頭托鉢が展開され、師走の恒例行事となっている。今回も多くの方々の協力により平成二十九年一月二十七日現在で五十七会場の実施報告があった。

全国での募金総額は八百四十八万六千八百二十一円で、これらの浄財から地域社会福祉向上のために地元の社会福祉協議会やＮＨＫの歳末たすけあい運動などに届けられたほか、一隅を照らす運動総本部「地球救援事務局」に四百二十七万一千二百八十三円が寄託された。

## 各地の模様

### 延暦寺一山

平成二十八年十二月一日、比叡山麓の大津市坂本地区一帯で行われ、今回で三十一回目を迎えた全国一斉托鉢には、延暦寺一山住職や職員、天台宗務庁の役職員、また今回は一隅を照らす運動広報大使でもある露の団姫師も参加し、総勢約百名が托鉢を実施した。

午前九時より、法螺貝の音を合図に生源寺を出発した一行は、天台座主森川宏映猊下を先頭に「造り道」を托鉢行脚。その後六班に分かれて坂本界隈の戸別托鉢を行い、多くの浄財が寄せられた。また、午前七時半より天台宗務庁の役職員と延暦寺一山寺庭婦人が、ＪＲ比叡山坂本駅、ＪＲ大津京駅、ＪＲ堅田駅と京阪坂本駅にて街頭募金を実施した。

なお、当日に寄せられた浄財は、ＮＨＫ歳末たすけあい運動とＮＨＫ海外たすけあい運動に寄託された。

### 滋賀教区本部

十二月一日、甲賀市甲南町池田地区にて総勢六十七名が九班に分かれ托鉢を実施。雨天が心配されたが暖かい好日に恵まれ、文殊院、檜尾寺、金龍寺の檀信徒の方々の協力を得て、スムーズに托鉢が行われた。手を合わし布施をしていただく方々に有難く感じた。地球救援事務局に十八万二千円を寄託。

### 京都教区本部

十二月三日、京都市中京区四条河原町の高島屋京都店前、京都マルイ前に

て総勢二十五名が二班に分かれ街頭托鉢を実施。京都教区宗務所を出発後、青蓮院門跡にて法楽を経て、四条河原町にて浄財の募金を「歳末たすけあい」、「災害救援」等をスローガンに呼びかけた。晴天もあり、大勢の方々に足を止めていただき、貴重な浄財をお預かりさせていただけたように思う。京都新聞社に二十万二千五百六十円、地球救援事務局に二十万二千五百六十円を寄託。

## 近畿教区本部

十二月二日、大阪心斎橋筋戎橋付近にて総勢十名が街頭托鉢を実施。当日は寒風吹く天候でしたが、通行人も多く「一隅を照らす運動」について説明するグループと読経をしながら喜捨を受けるグループに分かれ托鉢を行った。パンニャ・メッタ協会へ六万一千六百八十七円、地球救援事務局へ六万一千六百八十七円を寄託。

## 兵庫教区本部

・第一部では十二月一日、神戸市中央区元町筋商店街にて総勢十六名が街頭托鉢を実施。事前に托鉢告知をしていなかったにもかかわらず、商店街店舗や通行人から温かい浄財をいただいた。地球救援事務局に四万二千七百二十四円を寄託。

・第二部では十二月三日、東窟寺、善法寺、玉照院檀中にて総勢四十二名が五班に分かれて戸別托鉢を実施。当日早朝は、濃い霧に包まれ大変寒い朝となったが、時が経つにつれ霧も晴れて好天に恵まれた。各寺院総代の案内のもと各家に温かく迎えていただき、恙なく終えることができた。篠山市社会福祉協議会に十二万五千円と洗剤十五個、砂糖十kg、加東市社会福祉協議会に二万円と砂糖十kg、三田市善意銀行に二万円、地球救援事務局に十万円を寄託。

・第三部では十二月一日、極楽寺周辺にて総勢六十六名が戸別托鉢を実施。前日の夜から降っていた雨が心配されたが、当日の集合時間にはあがった。極楽寺本堂前にて結団式を行い、割当地区、班別等の説明をした後、二十三名の住職を先頭に各地区に分かれ、極楽寺の檀家を戸別に訪問した。各家では玄関を開け住職を迎えてくださり、中には読経、般若心経を一緒にお唱えし、浄財を直接手渡してくださった方もいた。約一時間半後に各地区の托鉢も終わり、寺院の本

堂にて休憩の後、自由解散で終了した。多可郡社会福祉協議会歳末募金に十五万八千五百円、地球救援事務局に十五万八千六百円を寄託。

・第四部では十二月一日、姫路駅前から姫路城前まで、総勢十一名が托鉢行脚を実施。段々と敬遠される方が増えてきており、お経を唱えながら待っていても集まらないように感じた。ティッシュを配って受け取っていただいた方の中には、募金をしてくださる方もおられた。地球救援事務局に六万八千四百四十五円を寄託。

・第五部では十月二十二日、正樂寺周辺にて総勢十六名が戸別托鉢を実施。幸い前日の十月二十一日に発生した鳥取県中部地震の影響もなく、正樂寺のご住職・副住職両師の常日頃からの檀信徒への布教活動のお蔭で、托鉢の意義をご理解いただいており、積極的にご協力いただけた。ただ、当地区は鳥取県と隣接する地域であり、関係各位も多く、震災翌日という事もあって被災地域に想いを寄せ、案じての托鉢であった。地球救援事務局に鳥取県中部地震災害義援金として十四万五千八百円を寄託。

・第六部では十二月三日、丹波市春日町野上野地区周辺にて住職とのぼり旗を掲げた檀信徒、総勢七十三名が四班に分かれて戸別托鉢を実施。初霜が降り濃霧の大変寒い朝になったが、桂谷寺世話方の先導でスムーズに実施できた。毎年順番に各檀家を持ち回りで実施しており、本年で三十一回目になるので、皆さんに浸透している。これまでは、檀家のお宅のみ托鉢をしていたが、今年は桂谷寺檀家以外の野上野自治会全戸を訪問した。快く応じていただき、天台宗の全国一斉托鉢、一隅を照らす運動を布衍する機会がもてて非常によかった。丹波市社会福祉協議会に八万五千二百五十円、地球救援事務局に八万五千二百五十円を寄託。

## 岡山教区本部

・第一部では十一月十六日、松井寺での部会にて住職十四名から浄財を募った。地球救援事務局に一万九千円を寄託。

・第二部では托鉢行脚を実施していない。山陽新聞社会事業団に九万円、地球救援事務局に九万円を寄託。

・第四部では十一月二十四日、倉敷市玉島の市街地にて総勢四十九名が戸別托鉢を実施。この時期に実施するようになって二十年を越え、市民も

違和感なくこの托鉢を受け入れてくれるようになっている。寺院の方は徐々に世代交代が進んでいるが、檀信徒の方は高齢化が進む一方で、次世代の参加があまりないことが今後の課題である。倉敷市社会福祉協議会に五万円、地球救援事務局に十八万二千四百十六円を寄託。

・第五部では托鉢行脚を実施していない。山陽新聞社会福祉事業団に三万円を寄託。

## 山陰教区本部

・第一部では十二月一日、鳥取駅前にて総勢十名が托鉢を実施。「般若心経」をあげながら錫杖を振り募金活動を行った。募金箱に「鳥取県中部地震募金天台宗山陰教区第一部」と紙を貼り、「一隅を照らす」幟を立てて移動しないで行った。市民の反応は良く、笑顔でご協力をいただけた。被災地寺院からの参加も多く、まさに「忘己利他」の精神を生かした托鉢であった。鳥取中部地震義援金として日本海新聞に七万百八十七円、教区仏教青年会募金活動に一万円を寄託。

・第三部と第四部は合同で十二月一日、松江駅前にて総勢七名が街頭募金を実施。市民、観光客ともに人の動きは少なかったが、子どもからお年寄りまで快く募金をしていただけた。鳥取県中部地震義援金として鳥取県庁に三万円、山陰中央新報社会福祉事業団に二万七千三百九十三円を寄託。

## 四国教区本部

十二月二日、道後温泉周辺にて総勢二十二名が托鉢を実施。観光客や地元住民への募金活動を行った。通行する多くの人は、我々の呼びかけに対して無反応であった。それだけに呼びかけに応じ、募金してくださる方々の有り難さを強く感じた。地球救援事務局に二万二千八百六十五円を寄託。

## 九州東教区本部

・第一教部では十二月一日、国東町、武蔵町にて総勢七名が街頭托鉢ならびに戸別托鉢を実施。各家に呼びかけて実施した方が、一箇所にて呼びかけよりも反応があった。地球救援事務局に二万七千円を寄託。

・第二教部では十二月一日、国東町、国見町内の各寺院において檀信徒に呼びかけを実施。地球救援事務局に四万五千円を寄託。

・第三教部では十二月一日、豊後高田市昭和の町周辺にて総勢十名が三組に分かれて街頭托鉢を実施。毎度の

ことなので待っていて下さる方がたくさんおられた。大分県交通安全協会に六万円、地球救援事務局に七万三千二百三十四円を寄託。

・第四教部では十二月一日、大分市のトキハデパート前にて総勢十名が街頭托鉢を実施。トキハデパートの許可をいただき、配慮していただいた。反応はよかった。人通りは年々少なくなり、大分駅周辺の人の流れが変わってきたように感じる。デモンストレーションと少しの募金ができた。地球救援事務局に三万九千円を寄託。

・第五教部では十二月八日、部内各寺院より浄財を募った。地球救援事務局に一万五千円を寄託。

・第六教部では十二月一日、部内各寺院にて托鉢を実施。地球救援事務局に一万円を寄託。

## 九州西教区本部

・筑前部では十一月二十四日、太宰府天満宮の参道にて総勢十四名が西鉄太宰府駅から参道沿いの土産物店を左右に分かれて戸別托鉢を実施。お店には多くの観光客が買い物をしておりお店の方は忙しい中、浄財を寄進していただいたり、観光客の方に記念写真をお願いされたりと、あたたかく接していただくことができた。地球救援事務局に二万百六十三円を寄託。

・久留米部では十二月七日、久留米市商店街にて総勢十一名が戸別托鉢を実施。天気にも恵まれた中、町の方も協力的に浄財を持ってこられ、「寒い中、ご苦労様です」などと多くの声をいただきながらの托鉢となった。災害が多い年でしたので、そのために使って欲しいとの意見もあった。熊本地震災害支援に四万八千四百三十五円を寄託。

・柳川部では十二月七日、柳川市内にて総勢八名が戸別托鉢を実施。例年のことであり、市民、商店街の方々、買い物をする方々から、あたたかい浄財をいただいた。ただ、商店街の空き店舗が目立つようになっており、少子高齢化にともなう各家々、商店の後継が問題になってきているように感じた。地球救援事務局に二万五

千百四十五円を寄託。

・肥前東部と肥前西部は合同で十二月一日、佐賀市の駅前商店街にて総勢十六名が街頭托鉢を実施。今回は、各地で起こった災害への募金を呼びかけながら托鉢を行った。天候にも恵まれ、毎年同じ場所で托鉢を行っているためか、多くの商店の方々にご協力をいただいた。地球救援事務局に四万三百三十四円を寄託。

・対馬部では十二月十五日、対馬市厳原町にて総勢十名が托鉢を実施。拡声器を使用して托鉢の趣旨を説明、檀信徒を中心に声かけをしてもらい、僧侶はひたすら読経をした。同じ所で三年目になるが、師走の風物詩になりつつある。地球救援事務局に三万六千七百円を寄託。

## 三岐教区本部

十一月二十八日、三重二部佛眼院周辺にて総勢十八名が三班に分かれ戸別托鉢を実施。檀信徒には托鉢をする旨を事前に伝えておいた。商店街では、一軒ずつ縦走し、みな快く募金をしていただけた。今回は、檀信徒宅を中心にまわったが、商店街おいては少数だが一般の方からの募金もあった。地球救援事務局に六万一千二百二十九円を寄託。

## 東海教区本部

十二月二十一日、名古屋市千種区の覚王山日泰寺にて総勢五名が托鉢を実施。当日は、今年最後の縁日ということで、多くの参拝者でにぎわい、また好天に恵まれ、多くの方にご協力をいただいた。天台仏青連盟救援委員会に十万七千八百六十五円、中日新聞歳末たすけあい募金に五万円、地球救援事務局に八万円を寄託。

## 北陸教区本部

十一月二十七日、富山市内にて総勢十六名が托鉢を実施。富山市では托鉢をする寺院がなく、市全体が好意的ではなかった。ただ、観光客などは珍しく思い、写真を撮る方も何人かいた。地球救援事務局に十六万一千九百十円を寄託。

## 信越教区本部

・伊那部では十二月一日、下伊那郡高森町大島山地区の瑠璃寺周辺にて総勢八名が戸別托鉢を実施。この地区

での戸別托鉢を初めて実施した。瑠璃寺の檀家さんが温かく迎えてくださった。玄関先でご夫婦そろって正座になり、お経が終わるまで一緒に合掌してくださったお家や子どもさんが待っていて浄財を入れてくださったお家もあった。地球救援事務局に七万一千七百五十五円を寄託。

## 神奈川教区本部

十二月一日、平塚駅北口にて総勢三十九名が七、八名の五組に分かれ街頭托鉢を実施。幟旗を掲示し、チラシとティッシュを配布しつつ、天台宗を掲げて全国一斉托鉢を行っている旨を伝え、募金への協力を呼びかけた。通行の方々に多くの浄財を頂戴し、また教区内の各寺院がそれぞれ集めた募金も持参いただいた。教区仏青救援募金に十万円、地球救援事務局に二十二万四千五百六十四円を寄託。

## 東京教区本部

・東京教区本部では十二月十日、聖観音宗浅草寺宝蔵門前にて総勢四十四名が街頭托鉢を実施。外国人観光客が多かったが、主旨を説明したら沢山の方が協力をしてくださった。啓発資料等に外国人観光客にも伝わる表記（英語・中国語等）があれば、浄財が集まりやすいのではないかと感じた。あしなが育英会に十万円、港区社会福祉協議会に三万三千五百八十三円、地球救援事務局に十万円を寄託。

・東京教区仏教青年会では十二月二日、明治神宮外苑前いちょう並木にて総勢十七名が二カ所に分かれ街頭托鉢を実施。当日は晴天に恵まれ、いちょうの紅葉がきれいな中で実施できた。お寺等がない場所で実施したので、いろいろな声をいただいた。また、東京教区宗務所がある土地なので、その様なところでできているのも良いと感じた。日本赤十字社に三万円、天台仏青連盟救援委員会に二万円を寄託。

## 北総教区本部

十二月一日、船橋市周辺にて総勢十九名が二班に分かれ戸別托鉢を実施。寒風の雨交じりの中、上和泉部並びに下和泉部の住職、副住職が参加。悪天候の為、托鉢の地域を大幅に縮小せざるをえなかったが、檀信徒の方々は快く協力をくださり、共に慈愛の心を養い、仏性の自覚に勤めさせていただいた。地球救援事務局に十七万八千円を寄託。

## 南総教区本部

十二月七日、太東駅周辺にて総勢二十六名が街頭托鉢を実施。駅の乗降者が少なく、場所等を再検討する必要があると感じた。タイ・プラティープ財団に五万円、地球救援事務局に四万三百九十四円を寄託。

## 埼玉教区本部

十二月一日、川越駅並びに丸広百貨店川越店周辺、熊谷駅周辺にて総勢二十五名が街頭托鉢を実施。川越駅・丸広百貨店では、天台宗と聞いて募金をしてくださる方、声をかけてくださる方が多かったように感じた。また、今回は「しょうぐうさん」をお借りした事もあり、足を止められる方や、写真を撮っている方が多かった。特に「しょうぐうさん」のお陰で、笑顔の方が多いように感じた。熊谷駅では、通行人が少なく難しい状況が続いている。その中でも高齢の方の反応が良かったと感じた。来年は、教区内の別の場所での実施を考えたい。天台仏教青年連盟に三万四千五百七十四円、地球救援事務局に二十五万七千四百四十九円を寄託。

## 群馬教区本部

・南前橋部では十二月三日、南前橋部安養院周辺にて総勢百十二名が戸別托鉢を実施。群馬教区本部に四万五千六百十八円、地球救援事務局に五十万円を寄託。

・北前橋部では十二月二日、北前橋部光運寺周辺にて総勢十四名が戸別托鉢を実施。上毛新聞社に十万円、群馬教区本部に三万円、地球救援事務局に三万六千八百二十円を寄託。

・西前橋部では十二月一日、西前橋部長松寺周辺にて総勢五十七名が戸別托鉢を実施。吉岡町社協に十万円、上毛新聞社に十一万円、仏教保護会に六万円、地球救援事務局に十五万円を寄託。

・高崎部では十二月二日、高崎駅前、高崎市内にて総勢五名が街頭托鉢ならびに戸別托鉢を実施。群馬教区本部に三万円、地球救援事務局に三万円を寄託。

・富岡部では十二月三日に富岡市内、十二月十日に甘楽町内にて総勢二十名が戸別托鉢を実施。社会福祉協議会に十四万四千九百八十円、群馬教区本部に一万円、地球救援事務局に二万円を寄託。

・多野部では十一月六日、多野部普賢寺で行われた研修会にて募金活動を実施。群馬教区本部に二万五千円、地球救援事務局に二万六千円を寄託。

・北群馬部では十二月三日、渋川市内にて総勢五十四名が街頭托鉢を実施。渋川市社会福祉協議会に十万円、上毛新聞社に十万円、群馬教区本部に五万円、地球救援事務局に四万九千円を寄託。

・桐生部では十二月六日、桐生市内にて総勢十三名が街頭托鉢を実施。群馬教区本部に三万六千百円、地球救援事務局に三万六千百円を寄託。

・東前橋部では十一月二十四日、部内各寺院にて総勢十名が戸別托鉢を実施。群馬教区本部に六万円、地球救援事務局に六万円を寄託。

・下仁田部では十二月一日、下仁田町、南牧村内にて総勢十名が戸別托鉢を実施。下仁田町社会福祉協議会に七万八千六百二十一円、南牧村社会福祉協議会に四万七千三百五十五円、仏教保護会に二万円、群馬教区本部に一万五千円、地球救援事務局に一万五千円を寄託。

## 茨城教区本部

・茨城教区本部では十二月三日、第二部千光寺周辺にて総勢十五名が戸別托鉢を実施。当日は天候に恵まれ、また毎年行われているため、各家の皆さん、優しい言葉をかけてくださり、歩く托鉢の姿を見て、車を停めて募金に協力をしていただけた方もいた。茨城教区ラオス学校建設基金に五万円、地球救援事務局に九万一千五百円を寄託。

・第二部では十二月四日、下館駅周辺にて総勢七名が街頭托鉢を実施。温厚な天候であったが、平日、土曜と比較すると、人影はまばらで、休業する店も多数であった。しょうぐうさんの人気は幼児達に対してとても高いと感じた。筑西市社会福祉協議会に十二万七千五百五十三円を寄託。

## 栃木教区本部

十二月一日、宇都宮駅西口ロータリー前にて総勢十三名が街頭托鉢を実施。夕方の帰宅者を主な対象として県内主要駅である宇都宮駅にて行った。女性や子どもたちがよく募金をしてくれたが、発生直後に行った熊本地震支援募金の時と比べると、全体的に落ち着いた反応であった。年に二～三回、同一場所にて募金を行っているので、認知は進んでいると思われる。継続的な活動を行っていきたい。地球救援事務局に三万二千五百七十四円を寄託。

## 福島教区本部

・福島教区本部では十二月一日、福島駅前にて総勢二十四名が街頭托鉢を実施。福島民報に三万円、福島民友新聞社に三万円、地球救援事務局に四万八千九百七十九円を寄託。

・第四部龍興寺支部では十一月三十日、会津美里町・高田町にて詠讃会、伝道師会の会員など総勢十八名が、第二十九回「歳末助け合い詠讃托鉢」として戸別

托鉢を実施。福島民報社教育福祉事業団に四万六千六百八十七円、地球救援事務局に四万六千六百八十八円を寄託。

**陸奥教区本部**

十一月十二日、第三部浄土寺にて総勢三十四名が戸別托鉢を実施。十一月に入り天候が心配されたが、幸いにも好天に恵まれ托鉢を行うことができた。忙しい中、檀信徒の方々には、快く托鉢の主旨に賛同をいただき、心から感謝している。平川市社会福祉協議会に五万円、地球救援事務局に五万九千三百十二円を寄託。

**山形教区本部**

十一月二十二日、長井市神明町周辺にて総勢二十九名が戸別托鉢を実施。晴天の下、立正佼成会の助力者とともに皇大神社を出発し、長井市内の住宅・繁華街を巡った。地元関係者の留守宅が多い一幕もあったが、家々や通りすがりの方々から励ましの言葉とともに多数の浄財をいただいた。山新放送愛の事業団に十八万一千六百五十六円、地球救援事務局に十万円を寄託。

## 平成二十八年度支部活動事業認定支部

一隅を照らす運動総本部では、平成十九年度より宗祖大師のお言葉「己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」の精神で社会奉仕活動を実践する支部を奨励し、助成を行なっている。平成二十八年度の認定支部は次のとおり三十五支部。

### 滋賀教区本部

**嶺南寺支部（松岡順海支部長）**

●事　業　名：嶺南寺ふれあいフェスティバル
●活動年数：九年
●開催場所：滋賀県甲賀市甲南町
●概　　要：誰もが気軽に訪れることのできるイベントを計画し開始した。境内に竹で作った竹明かりを並べ、幻想的な雰囲気の中、三、四組ほどの出演者による演奏や出し物を行っている。

**稱名寺支部（武内昭雄支部長）**

●事　業　名：社会貢献活動
●活動年数：十六年
●開催場所：滋賀県近江八幡市安土町
●概　　要：檀家など相互の交流、助け合いを通じて、家庭や社会を明るく心豊かな社会の実現を目指す運動を展開する。

**百濟寺支部（濱中亮明支部長）**

●事　業　名：一隅を照らす運動愛犬支部活動事業

●活動年数：八年
●開催場所：滋賀県犬上郡甲良町
●概　要：一隅を照らす運動の一環として養護学校での奉仕活動を行っている。生徒と共に草刈りやビニールハウスの張り替え作業を行っている。

### 松尾寺支部（近藤澄人支部長）

●事　業　名：松尾寺山の里山保全、整備活用事業
●活動年数：二十一年
●開催場所：滋賀県米原市
●概　要：「山道を安全に人が入りやすい山へ」をテーマに松尾寺山一帯の管理を行っている。他にもトレッキングルートの登山イベントにも協力している。

## 兵庫教区本部

### 長光寺支部（雲井明善支部長）

●事　業　名：地域高齢者慰問、慰労事業
●活動年数：二十六年
●開催場所：兵庫県明石市大久保町
●概　要：公民会や老人憩いの家などにおいて、サロン活動に取り組み、高齢者に交友の場を提供している。その他にも清掃奉仕活動を行っている。

### 常行院支部（岡山亮徹支部長）

●事　業　名：山下城跡周辺保存会
●活動年数：六年
●開催場所：兵庫県加西市山下町
●概　要：城山の整備、保全、植栽の世話、草刈り、立木の伐採などに取り組んでいる。他にも山下城を訪れる人への説明なども行っている。

### 彌勒寺支部（草別善哉支部長）

●事　業　名：ほていまつり
●活動年数：二十一年
●開催場所：兵庫県姫路市夢前町
●概　要：本堂及び本尊の公開、書院庭園の公開、フリーマーケット、ボランティアグループによる紙芝居、地元小学校のコーラス発表などが行われる。事業を通じて、文化芸術の振興及び地域の活性化などに効果があると思われる。

### 白毫寺支部（荒樋勝善支部長）

●事　業　名：自然環境保全及び交流事業
●活動年数：二十六年
●開催場所：兵庫県丹波市市島町
●概　要：寺院及び周辺に花木を育て環境保全に資するとともに、イベントを通じて交流事業を行い、地域の活性化に貢献することを目的としている。「白毫寺九尺ふじまつり」の実施や「もみじめぐり事業」へ協賛している。

## 山陰教区本部

### 大日寺支部（見上知正支部長）

●事　業　名：子ども田んぼ
●活動年数：十年
●開催場所：鳥取県倉吉市

●概　要：田植えから稲刈り、精米まで子どもたちに体験を通して、農作業への親しみ、また食物ができるまで道程を理解させ、そのありがたさを感じさせる。また、親を中心に一般の大人との交流も深める。

## 長谷寺支部（奥野寛應支部長）

●事　業　名：初観音会式と観音市
●活動年数：歴史は三百年
●開催場所：鳥取県倉吉市
●概　要：江戸時代中期より本尊御宝前に国家安泰、万民快楽を祈る伝統行事で、多くの参拝客が訪れることから観音市が併催される。山陰中部の伝統行事として継続している。

## 皆成院支部（清水成眞支部長）

●事　業　名：三徳山夏の集い
●活動年数：十四年
●開催場所：鳥取県東伯郡三朝町
●概　要：鳥取県に外国から来られている方々に日本の文化、宗教を知っていただく事業。毎年新たに来られる方も多くあり、事業を通じて交流も生まれ、「一隅を照らす」という言葉を知っていただく機会となっている。

## 興隆寺支部（市原修俊支部長）

●事　業　名：山寺コンサート
●活動年数：七年
●開催場所：山口県山口市
●概　要：江戸時代に行われていた「二月会」を老若男女が親しめる現代版の催しとして再興し、実施している。従来の行事を偲びながら、現代風に親しまれる内容を取り入れ、地域住民に親しまれ、かつ望まれる内容として継続したい。

# 四国教区本部

## 妙法寺支部（大岡真祥支部長）

●事　業　名：丸亀ジャズストリート
●活動年数：三年
●開催場所：香川県丸亀市富屋町
●概　要：音楽文化の振興と丸亀市中心市街地の活性化をはかるイベントとして開催されている。香川県内のミュージシャンバンドが出演し、コンサートを開催。各会場は無償提供で実施されている。

## 玉瀧寺支部（大岡真祥支部長）

●事　業　名：清掃奉仕、伝統文化活動
●活動年数：二十年
●開催場所：香川県丸亀市広島町
●概　要：市井地区にある玉瀧寺や加茂神社の境内清掃や地区の道路清掃、草刈りを行っている。他にも広島お大師まいりのお接待、加茂神社例大祭の開催、玉瀧寺盆踊りの開催を行っている。

## 九州東教区本部

### 東泉寺支部（寺田豪淳支部長）

●事　業　名：両子の森プロジェクト
●活動年数：六年
●開催場所：大分県国東市安岐町
●概　　要：「命の学び」をテーマに、植林や草刈りの作業を通して「山川草木悉皆成仏」を肌で感じる好機になっている。言葉のみではなく、体験を伴った学びで、この活動が森作り、布教の良いモデルとなるよう「一隅を照らす」精神で継続していきたい。

### 眞光寺支部（糸永崇幸支部長）

●事　業　名：公開文化講座
●活動年数：十五年
●開催場所：大分県大分市
●概　　要：檀信徒の中から活動している方を取り上げ、活動や取り組みについてお話しいただき、その活動を広く知ってもらい、支援することを目的としている。地元紙の後援や障がい者団体の協力もあり、寺の枠を超える事業として進んでいる。

## 九州西教区本部

### 安禅寺支部（松本達淳支部長）

●事　業　名：地区の和
●活動年数：六年
●開催場所：佐賀県神埼郡
●概　　要：お宮の境内など公共的な地区の広場で奉仕活動を行い、コミュニケーションや親睦をはかる場となっている。境内地以外の休耕田に花を植えるなど、地区内外の方からも喜ばれている。

## 三岐教区本部

### 觀音寺支部（吉田眞圓支部長）

●事　業　名：里山保全
●活動年数：四年
●開催場所：三重県四日市市垂坂町
●概　　要：地域の環境保全、地域活性化のボランティア活動として除草、清掃活動を行っている。他にも、小学生を招き、植樹活動等も行い、住職から法話も行っている。

### 寶光院支部（鈴木孝慈支部長）

●事　業　名：清掃奉仕活動
●活動年数：六十年
●開催場所：岐阜県大垣市
●概　　要：寺院の南を流れる杭瀬川並びに堤防周辺の環境保全として、草刈りやゴミ拾い、川の中の大型ゴミの引き上げ等を行っている。

## 東海教区本部

### 髙田寺支部（柴田真成支部長）

●事　業　名：髙田寺本尊薬師如来奉納わんぱく子供相撲大会
●活動年数：三十六年
●開催場所：愛知県北名古屋市
●概　　要：本尊薬師如来様のご縁日にあたり、一人でも多くの人にご縁を結んでいただければという願いで毎年十一月第二日曜に開催している。幼稚園年中から小学六年生までの男女約百八十名の参加があり大いに盛り上がっている。

### 根福寺支部（林敬順支部長）

●事　業　名：「杜の宮市」へ参加、募金活動
●活動年数：三十六年
●開催場所：愛知県一宮市
●概　　要：ボーイスカウト稲沢第九団ボーイ隊が一ノ宮市の真清田神社にて開催された「杜の宮市」に参加し、「杜の学校」として地域の人たちに割り箸などの廃材を利用したクラフト教室を開催した。他にも、熊本地震への募金活動も行い、寄託した。

### 圓観寺支部（加藤大道支部長）

●事　業　名：介護老人福祉施設訪問
●活動年数：七年
●開催場所：愛知県知多郡阿久比町
●概　　要：地元の介護老人施設を訪問し、利用者の方々と『般若心経』のおつとめを行い、法話を行っている。その他にも、地区の例祭への寄付施設を開放するなど、まちづくりにも貢献している。

### 瀧山寺支部（山田亮盛支部長）

●事　業　名：宴ｄｅよせよ～華と落語で瀧山寺～
●活動年数：初回
●開催場所：愛知県岡崎市滝町
●概　　要：境内を「床の間」に見立て、立て花、竹灯籠、絵手紙灯籠、ローズウィンドウなどでしつらえ、みんなの華舞台を開催する。真打ちの落語家による寄席や町内有志のステージなどのイベントを実施。

## 信越教区本部

### 正教院不動教会支部（山崎晃圓支部長）

●事　業　名：池ヶ原老松会
●活動年数：三十五年以上
●開催場所：新潟県小千谷市
●概　　要：町内の高齢者が集まり会を組織し、池ヶ原神社や池ヶ原公会堂等において清掃奉仕活動に取り組んでいる。他にも、絆の会と称し、高齢者と小学生の交流会を実施。

## 神奈川教区本部

### 興禪寺支部（金子慈淵支部長）

●事業名：興禪寺雅楽会
●活動年数：歴史は百四十年位
●開催場所：神奈川県横浜市
●概　　要：興禪寺の行事をはじめ、県内寺院や神社の例祭、結婚式、港北区民俗芸能保存会等で活動している。他にも、小学校の授業の一環として、雅楽の説明や演奏披露等を行っている。

### 東圓寺支部（鷹野慈誠支部長）

●事　業　名：東圓寺一隅会ボランティア活動
●活動年数：十年
●開催場所：山梨県南都留郡忍野村
●概　　要：富士山世界文化遺産の構成遺産として忍野八海が加えられた

のを機に清掃活動を始めた。当初は東圓寺一隅会の役員だけであったが、最近は主旨に賛同される一般企業の参加もあり、参加者は増加している。

## 南総教区本部

### 萬福寺支部（奈良康信支部長）

●事　業　名：高齢者サロン活動
●活動年数：十一年
●開催場所：千葉県鴨川市
●概　　要：過疎化が進み、人と人の交流が少なくなった今、集まった人たちと皆で楽しく過ごしていただく「ふれあいサロン」を開催。その中で支え合い、仲間作り、生き甲斐作りができ、安心して暮らせる地域、社会を目指して活動している。

## 群馬教区本部

### 萬福寺支部（守山俊尚支部長）

●事　業　名：寺遊会（寺で遊ぶ会）
●活動年数：三年
●開催場所：群馬県前橋市女屋町
●概　　要：外出する機会を減らしてしまう方々に声をかけ、皆でお茶を飲みながら、おしゃべりして笑い合うことで「楽しかった！」と笑顔を取り戻して帰宅される姿に、会としての誇りを感じる。毎回趣向を凝らした内容を企画している。

### 禪養寺支部（小出晃正支部長）

●事　業　名：寺献会
●活動年数：十一年
●開催場所：群馬県前橋市
●概　　要：学区清掃奉仕や寺院行事、環境整備、保全活動に取り組んでいる。これらの事業を通して「一隅を照らす運動」の推進と、地域社会と連携をとり、一乗思想の実践化、生活化に努めていきたい。

### 恩行寺支部（竹村興肇支部長）

●事　業　名：恩行寺古墳整備作業
●活動年数：十年以上
●開催場所：群馬県高崎市吉井町
●概　　要：檀家だけでなく、広く参加を呼びかけ「里山を守る会」を発足し、恩行寺古墳の周辺整備活動に取り組んでいる。将来的には古墳公園となるように整備していきたいと考えている。

### 正法院支部（藤井祐心支部長）

●事　業　名：正法院杯
●活動年数：五十年
●開催場所：群馬県前橋市富田町
●概　　要：境内、神社などの清掃活動や小学生、中学生、保護者を中心とした坐禅会に取り組んでいる。また、正法院杯（ゲートボール、スマイルボウリングの大会）等を開催している。

## 茨城教区本部

### 藥王寺支部（服部光俊支部長）

●事　業　名：一隅を照らす運動を広めよう！～写経、茶道等を通して～
●活動年数：六年
●開催場所：茨城県古河市
●概　　要：地域住

民との交流を深める一環として、写経や茶道を通じて伝教大師の「み教え」に触れてもらいたいとの願いがあり開催している。その他にも、一隅を照らす運動の実践として中学生に写経、坐禅止観の体験、法話等に取り組んでいる。

### 來迎院支部（深谷尚永支部長）

●事　業　名：御詠歌、読誦会、仏教文化、火防祭、研修会、奉仕作業
●活動年数：十三年
●開催場所：茨城県龍ヶ崎市
●概　　要：会員の皆さまと毎回楽しく和気あいあいと活動している。終了後はお茶を飲みながらその日の反省をし、次回の実施を楽しみに散会している。天台宗のため、世のために役立つ人材を育てることを目的に活動している。

## 安楽律法流本部

### 宗休寺支部（佐藤舜海支部長）

●事　業　名：関善光寺ふれあいプロジェクト
●活動年数：六年
●開催場所：岐阜県関市西日吉町
●概　　要：寺院を地域社会の新しい「対話」と「交流」の場とし、寺院を核に新しい地域コミュニティを作ることを目的に展開している。林間学校や写生大会、餅つき大会等を開催している。

## 玄清法流本部

### 成就院支部（梶谷隆幸支部長）

●事　業　名：筑前琵琶、玄清法流琵琶ふれあう会
●活動年数：初回
●開催場所：福岡県福岡市南区
●概　　要：玄清法流琵琶、筑前琵琶を文化として普及させていく活動の一環として、保育園の子どもたちに琵琶の鑑賞会を実施予定。

## 一隅を照らす運動ニュース

### ◎公開講座を開催

一隅を照らす運動総本部では平成二十八年十月二十七日、天台宗務庁大会議室を会場に第十六回・一隅を照らす運動公開講座を開催した。広く一般の方々に参加を呼びかけ、約三百五十名の参加者が集まった。

今回は、延暦寺一山律院住職の叡南俊照北嶺大行満大阿闍梨を講師に迎え、「行」と題して講演をされた。

講演の最初に千日回峰行当時の映像が放映され、静寂な雰囲気の中を叡南阿闍梨が入場、講演に先立ち参加者全員の所願成就等を祈念した「お加持」を修していただいた。

講演の中では、叡南阿闍梨の幼少期から小僧時代の話、そして回峰行での出来事、その中での師僧とのエピソードなど、過酷な「行」を満行した方だ

からこそ発せられる言葉に、参加者は聞き入っていた。

講演の最後に、参加者一人ひとりに叡南阿闍梨から念珠加持を授けていただき、公開講座は幕を閉じた。

**◎ＮＨＫに浄財を寄託**

平成二十八年十二月十六日、「ＮＨＫ歳末たすけあい」及び「ＮＨＫ海外たすけあい」に浄財が寄託された。

寄託式には、ＮＨＫ大津放送局から赤木俊夫局長に来庁いただき、木ノ下寂俊一隅を照らす運動理事長、小鴨覚俊同運動理事から目録が手渡された。

歳末たすけあいには、十二月一日に比叡山麓坂本地域で行われた「天台宗全国一斉托鉢」にて寄せられた浄財五十七万一千百六十六円が、海外たすけあいには、地球救援事務局から百万円がそれぞれ寄託された。

また、寄託式にあわせて、比叡山幼稚園から園児三名と保護者三名が来庁し、秋に行われたバザーの収益金の一部を赤木局長に寄託した。

「ＮＨＫ歳末たすけあい」、「ＮＨＫ海外たすけあい」は、国内外の支援が必要な方々のために役立てられる。

**◎三千院門跡が浄財を寄託**

平成二十九年一月十二日、三千院門跡の多紀顥忍執事長が天台宗務庁に来庁し、一隅を照らす運動総本部へ七十四万四千八百四十八円の浄財を寄託された。

この浄財は、京都市左京区大原の三千院一帯の地域で、平成二十八年十二月二十三日に実施された歳末の恒例行事である「托鉢寒行」で集まった浄財で、地球救援事務局の様々な救援活動に役立てられる。

**◎「一隅を照らす運動」理事会を開催**

平成二十九年一月二十日、天台宗務庁において平成二十八年度第二回「一隅を照らす運動」理事会が開催され、平成二十九年度一隅を照らす運動の事業計画、各会計の予算等が審議・承認された。

会議の冒頭で、大樹孝啓会長より「社会の情勢が変動する中において、一隅を照らす精神を広めることは非常に重要なことである。一隅を照らす運動は、宗内や檀信徒の方々に大きな影響を与えているが、一般的にはまだまだ広まりが少ない。もう少し何か社会的に広

まる方法を模索していかなければならない」と挨拶があった。

**◎比叡山高校宗内生が托鉢浄財を寄託**

平成二十九年一月二十三日、比叡山高校の宗内生三名（髙倉悠聖君一年生、水尾紘太朗君一年生、仲田昌平君二年生）と宗内生が寮生活を送る山家寮の長山弘範寮長が来庁し、平成二十八年十二月三日に行われた「寒行托鉢」で集まった浄財九万九百六十円を地球救援募金として、一隅を照らす運動総本部に寄託した。

この托鉢は、宗内生が実践仏教の一環として、大津市仰木地区において毎年行っているもので、黒素絹に手甲、脚絆、網代笠姿に装束を整え、法螺貝を吹きながら家々を行脚した。

今年は宗内生十名が参加し、玄関先では「般若心経」を唱えて家内安全などを祈願した。

**◎叡山学院が托鉢浄財を寄託**

平成二十九年一月二十七日、叡山学院生四名（土田隠聖さん総合学科三年、渕岡克成さん総合学科二年、犬塚喜貴さん総合学科二年、眞木輝さん研究学科一年）が来庁し、平成二十九年一月二十一日に行った托鉢で集まった浄財を一隅を照らす運動総本部に寄託した。

この托鉢は、叡山学院生で組織された「玉泉会（ぎょくせんかい）」主催の実践仏教の一環で「叡山学院寒行托鉢」として大津市園城寺町の園城寺（三井寺）門前から浜大津周辺にかけて行われている。

今回は、雪の舞い散る中、学生と職員合わせて三一名が街頭托鉢と戸別托鉢を行い、十万百七十四円の浄財が寄せられた。